

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	機能障害学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部1年		学期及び曜時限	後期	教室名	903
担 当 教 員	金谷 規弘	実務経験と その関連資格	理学療法士として上山病院で勤務経験あり。認定理学療法士(臨床教育)。			
《授業科目における学習内容》						
<p>人体の各組織(運動器)の解剖と損傷後の病的変化から修復過程までが理解できる。各損傷部の病理変化と修復過程の特徴を捉えることができる。理学療法実践時のリスクに関わる知識を列挙できる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>小テスト(30%)、学期末テスト(70%)で成績評価とする。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>教科書:機能障害科学入門(神陵文庫) 参考書:リハビリテーションビジュアルブック(学研)</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>(予習)各回の授業内容を教科書で確認しておくこと。 (復習)実施後の授業内容を資料、教科書①②を基に復習すること。小テスト前はより詳しく復習しておくこと。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>基礎医学、病理学の内容を資料や教科書を用いて学ぶ。画像を見ることがや理学療法の評価・治療にふれ、更に国家試験の過去問題を解答する、グループ学習をするなどの演習を適宜行い、より記憶に残りやすいよう工夫して進めるので、しっかりと学習して欲しい。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	機能障害学の概要と目標を知る。 炎症について、各種メカニズムが理解できる。		PC、プロジェクター	(復習)炎症細胞、炎症のメカニズムを他者に説明できるようにする。	
	各コマにおける授業予定	機能障害学の概要、炎症について				
第2回	授業を通じての到達目標	浮腫について、局所性浮腫の4つの原因が理解できる。		PC、プロジェクター	(復習)局所浮腫の原因4つ、浮腫のメカニズムを他者に説明できるようにする。	
	各コマにおける授業予定	浮腫				
第3回	授業を通じての到達目標	急性痛について、痛みの意義や基礎知識が理解できる。		PC、プロジェクター	(復習)痛みの意義、疼痛に関わる機能解剖を記憶する。	
	各コマにおける授業予定	急性痛(1・2の確認テスト)				
第4回	授業を通じての到達目標	慢性痛について、慢性痛の特徴・治療の考えが理解できる。		PC、プロジェクター	(復習)急性痛・慢性痛のまとめプリントを覚えよう。	
	各コマにおける授業予定	慢性痛				
第5回	授業を通じての到達目標	創傷について(結合組織の構造と機能(LECTURE))、皮膚の構造を知り、熱傷と褥瘡について理解できる。		PC、プロジェクター	(復習)結合組織、熱傷、褥瘡のポイントを記憶しておく。	
	各コマにおける授業予定	創傷(3・4の確認テスト)				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	骨壊死・軟骨損傷・骨折について、修復過程とリハビリテーションの考え方が理解できる。	PC、プロジェクター	(復習)骨癒合の条件、Gurtl分類、骨折の治癒過程を主に復習しておく。
	各コマにおける授業予定	骨壊死・軟骨損傷・骨折		
第7回	授業を通じての到達目標	半月板損傷について、解剖の特徴を知り、治癒過程とリハビリテーションの考え方が理解できる。	PC、プロジェクター	(復習)内・外側半月板の違い、血液供給領域を覚えておく。
	各コマにおける授業予定	半月板損傷(5・6の確認テスト)		
第8回	授業を通じての到達目標	腱損傷について、治癒過程を知り、運動療法の考え方が理解できる。	PC、プロジェクター	(復習)腱の治癒過程と運動療法との関係を記憶する。
	各コマにおける授業予定	腱損傷		
第9回	授業を通じての到達目標	靭帯損傷について、治癒過程を知り、運動療法の考え方が理解できる。	PC、プロジェクター	(復習)靭帯の治癒過程と運動療法との関係を覚えておく。
	各コマにおける授業予定	靭帯損傷		
第10回	授業を通じての到達目標	筋損傷について①:分類とその特徴について理解できる。(概念・骨格筋の機能解剖を含む)	PC、プロジェクター	(復習)筋の構造、筋損傷の分類とその特徴について記憶しておく。
	各コマにおける授業予定	筋損傷について① (7-9の確認テスト)		
第11回	授業を通じての到達目標	筋損傷について②、治癒過程とその特徴について知り、運動療法について理解できる。(発生メカニズム～治療トピックス)	PC、プロジェクター	(復習)筋損傷の治癒過程とその特徴、運動療法について覚えておく。
	各コマにおける授業予定	筋損傷について②		
第12回	授業を通じての到達目標	末梢神経損傷について、神経の修復過程について理解できる。	PC、プロジェクター	(復習)Suddenの分類、ワーラー変性、神経の修復過程を主に復習する。
	各コマにおける授業予定	末梢神経損傷		
第13回	授業を通じての到達目標	筋萎縮について、廃用性筋萎縮とサルコペニアを比較し、各々の病態の特徴が理解できる。	PC、プロジェクター	(復習)廃用性筋萎縮とサルコペニアとの比較表を覚える。
	各コマにおける授業予定	筋萎縮 (10-12確認テスト)		
第14回	授業を通じての到達目標	関節可動域制限について、定義や制限因子を知り、リハビリテーションの考え方が理解できる。	PC、プロジェクター	(復習)定義、拘縮、強直、ROMの制限因子について
	各コマにおける授業予定	関節可動域制限		
第15回	授業を通じての到達目標	これまでの14回の講義内容の要点をまとめることができる。	PC、プロジェクター	これまでの要点の確認・復習
	各コマにおける授業予定	まとめ (13・14確認テスト)		